

00. COPD を切り口とした新たな禁煙支援アプローチ ～保健指導用リーフレットの活用～

○橋本成央、岡田花梨、上野恵、森田佳美、市川正子、小池浩司(奈良県疾病対策課)、本木隆規(奈良県医療政策局)、室繁郎(奈良県立医科大学呼吸器内科学講座)、高橋裕子(京都大学大学院社会健康医学専攻健康情報学)

【目的】

喫煙は、健康に与える影響が大きく、がんになる最も大きな要因の一つであることが明らかとなっている。加えて、健康日本 21（第三次）において、喫煙による健康影響に、新たに「慢性閉塞性肺疾患（以下、COPD とする）の死亡率の減少」が目標に加わり、引き続き COPD の認知度の向上を行うこと等が重要であることとされている。COPD の普及啓発及び禁煙支援の効果を上げるためにリーフレットの見直しと早期発見・早期治療に向けた体制整備を行ったため、報告する。

【背景】

喫煙による健康への悪影響等の普及啓発活動を行うとともに、禁煙希望者に対する禁煙支援の充実を図る事を目的に令和 6 年 9 月県内ショッピングセンターにて実施した健康啓発イベント（日本対がん協会奈良県支部との共催）において、「COPD スクリーニングのための質問（以下、COPD の質問とする）」による肺の健康チェックを 52 名に実施した。COPD 保健指導用リーフレット（以下、リーフレットという）を用いた普及啓発を行い、ハイリスク者 11 名（21%）に保健指導を行った。50 歳代 18 名の内 3 名（17%）、60 歳代 8 名の内 4 名（50%）がハイリスク者であったが、呼吸機能検査を受けたことがある人はいなかった。また、COPD は加齢によるリスクもあるため、70 歳代以上で喫煙歴がある人は呼吸機能検査を積極的に検討する必要がある。したがって、保健指導の際に禁煙希望者への禁煙支援と共に、COPD の質問を実施し、ハイリスク者に対しては、呼吸機能検査や COPD の治療が可能な医療機関につなげる必要がある。

【方法】

(1) 禁煙支援のツールとして作成したリーフレ

ットを充実した内容にするため、呼吸器専門医の助言及び奈良県たばこ対策推進委員会（以下、委員会という）での協議の上、改訂を行った。

(2) COPD の早期発見・早期治療につなげる方法を委員会で協議し、具体的な体制構築について検討を行った。

【結果】

(1) リーフレットの内容を、①疾患像、②検査、③治療、④経過と治療効果、⑤禁煙の効果の 5 項目とした。委員会で協議し、イラストや図表を用い、専門用語を減らし、簡潔な文章や口語体にする事で、より県民が理解しやすいリーフレットへと改善した上で、承認を得た。県内市町村・保健所・事業所等の医療従事者が使用できるよう使用要領を作成した。県ホームページに掲載し、関係機関へ周知を行った。

(2) COPD の早期発見・早期治療のための体制づくりについて、委員会で協議した。県医師会からの周知及び配布の協力を得て、県内の医療機関にアンケート調査を行い、COPD 検査・治療可能医療機関の一覧を作成した。調査内で掲載希望した 62 医療機関（R7 年 8 月時点）の一覧を県ホームページに掲載し、関係機関へ周知を行った。

【考察】

今回、保健指導等の場面で適切な医療につなぐ基盤整備を行った。リーフレット及び COPD 検査・治療可能医療機関の一覧を活用することで、COPD の早期発見・早期治療が期待される。

また、従来からの禁煙支援に加え、COPD を切り口にする事で新たな禁煙希望者の増加に寄与すると考えられる。

今後、リーフレットを活用した具体的な取組を進めることで、県民への COPD の周知啓発と早期発見・早期治療に向けて取り組んでいく。